

千葉大学医学部附属病院産科で診断された 間葉性異形成胎盤・共存奇胎・部分奇胎の 患者の皆様、ご家族の皆様へ

2024年10月10日

産科・婦人科

産科・婦人科では、胎盤に多くの嚢胞（小さな水分の袋）がある疾患（嚢胞性胎盤：間葉性異形成胎盤・共存奇胎・部分胞状奇胎）に関する研究を行っています。胎児がいる場合、これらの胎盤の疾患を区別することは難しいとされており、これらを区別することが可能かどうかを研究するために以下に示す方の診療情報等を、本文書の公開日以降に利用させていただきます。研究内容の詳細を知りたい方、研究に情報を利用して欲しくない方は、末尾の相談窓口にご連絡ください。

本文書の対象となる方

2009年1月1日～2024年3月31日の間に当院で管理し、胎児を伴う
間葉性異形成胎盤または共存奇胎または部分奇胎と診断された方

1. 研究課題名

「胎児を伴う嚢胞性胎盤の超音波による鑑別に関する後方視的観察研究」

2. 研究期間

2024年承認日～2026年3月31日

この研究は、千葉大学医学部附属病院観察研究倫理審査委員会の承認を受け、病院長の許可を受けて実施するものです。

3. 研究の目的・方法

胎盤に多くの嚢胞があって胎児も共存する疾患として、間葉性異形成胎盤や共存奇胎（胞状奇胎と正常の妊娠の双子の妊娠）、部分胞状奇胎があります。これらの診断は、最終的には妊娠終了後の病理検査で行われ、妊娠中の診断が極めて難しいと言われています。一方、この3つの疾患は、母体の合併症（早産、妊娠高血圧症候群、大量出血など）や胎児の合併症（形態異常、胎児死亡、発育不全）、続発症（絨毛がんなど）の発症率が

大きく異なり、妊娠中の注意事項や治療が大きく異なります。妊娠中のなるべく早い時期に妊婦さんと胎児に大きな侵襲なくこれらの疾患の区別がわかると、妊娠中の受診や検査や入院の管理、また分娩や産後の管理が適切にできるため、大きなメリットがあります。これらは全て稀な疾患のため、今まで多くの症例を比べて区別することは難しいと言われていたため、当院で見せていただいた方々の今までの超音波の所見を比べて検討したいと思います。これがわかることにより、今後の同じような患者さんたちへ妊娠中のより詳細な情報が与えられ、不要な検査や処置の必要がなくなると考えています。

4. 研究に用いる情報の種類

診療録に記載されている年齢、妊娠中の産科合併症、胎児合併症、超音波の見え方、分娩週数、生まれた子の体重、生まれた子の合併症

5. 研究組織（情報を利用する者の範囲）

【研究機関名及び本学の研究責任者名】

研究機関：千葉大学医学部附属病院

研究責任者：産科・婦人科 助教 尾本暁子

6. 個人情報の取り扱いについて

本研究で得られた情報は、氏名等の個人を特定するような情報を削除し、どなたのものかわからないように加工して、千葉大学医学部附属病院 産科・婦人科において厳重に管理します。研究結果を学術雑誌や学会で発表することがありますが、個人が特定されない形で行われます。

本研究についてご希望があれば、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で、研究計画書及び研究の方法に関する資料を入手又は閲覧することができますので、相談窓口までお申し出ください。個人情報の開示に係る手続きの詳細については、千葉大学のホームページをご参照ください。

(URL : <http://www.chiba-u.ac.jp/general/disclosure/security/privacy.html>)

7. 研究に関する相談窓口について

研究に情報を利用して欲しくない場合には、研究対象とせず、原則として研究結果の発表前であれば情報の削除などの対応をしますので、下記の窓口までお申し出ください。情報の利用をご了承いただけない場合でも不利益が生じることはありません。

その他本研究に関するご質問、ご相談等は、下記の窓口にご遠慮なくお申し出ください

い。

相談窓口

〒260-8677

千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1

千葉大学医学部附属病院（病院長：大鳥 精司）

産科・婦人科 助教 尾本 暁子

043（222）7171 内線 5314